

PCT、マドリッド、ハーグの各制度は、それぞれ特許、商標、意匠を海外で取得する際の有効なツールです。これら制度を活用して知財活動の充実を図っている企業にWIPO日本事務所がお話を伺います。

今回ご紹介するのは、ヘッドホン、スピーカーをはじめ、オーディオ製品で多くの音楽ファンから支持を集め、株式会社オーディオテクニカのハーグ制度活用事例です。同社は1962年に東京で創業されて以来、高品質な音響機器の開発・製造を手がける日本のリーディングカンパニーです。特に、アナログレコード時代におけるターンテーブル用のピックアップカートリッジの開発で高い評価を受け、ヘッドホン、イヤホンなど、多彩な製品群で世界中の顧客を魅了してきました。

企業名：株式会社オーディオテクニカ
(Audio-Technica Corporation)

本社所在地：東京都町田市

設立：1962年4月17日

資本金：1億円

従業員数：541人（国内関連会社を含む合計738人）
(2025年7月1日現在)



画像提供：株式会社オーディオテクニカ

——まず、御社の海外意匠権の取得方針（戦略）について概要を教えてください。また、当該方針（戦略）と照らし合わせて、ハーグ制度について特にメリットを感じるところや、利用した感想をお聞かせください。

オーディオテクニカ：当社は主力のオーディオ製品で60年に及ぶ開発と技術の歴史を誇っています。1970年代はレコード全盛時代で、レコードプレーヤー用のカートリッジの製造・販売が当社の主力事業でした。1980年代に入ると、音楽を聞くスタイルは、レコードからCDに変化し、近年はスマートフォンのアプリを利用して音楽配信を聞くスタイルが普及しました。音楽を取り巻くニーズの変化に合わせ、当社が手がける分野も、ピックアップカートリッジから、LD用・CD用アクチュエーターへ、さらにスマートフォン用音響アプリの開発へと変化してきました。

新しい製品開発と並走して、関連する知的財産の保護も必要になります。そんな時、代理人に提案されたのが、ハーグ制度でした。ハーグ制度を利用すると、複数の国に出願する際にも1つの出願書類を用意するだけで足りるため、出願を急ぐ案件では特に、準備期間を大幅に短縮することができました。また、出願時に現地代理人費用がかからない点もメリットでした。

——次に、ハーグ制度をご利用になった意匠を取り上げていただき、差し支えない範囲でご利用内容をお聞かせください。また、どのような目的で、実際にどのような国を指定されたか、ご利用しての感想などと併せてご教示ください。

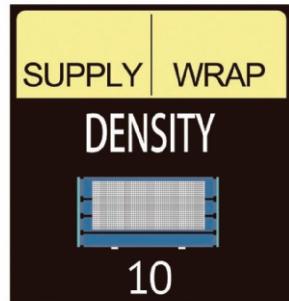
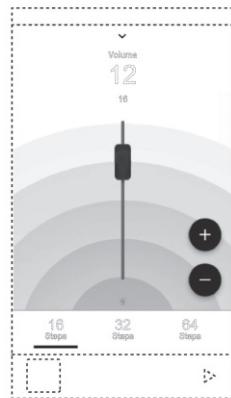
オーディオテクニカ：国際意匠登録第226,101はワイヤレスヘッドホンの意匠で、指定国・地域は欧州、英国、中国です。

本件は、全体意匠と部分意匠の計2意匠を1出願にまとめて手続きしました。欧州、英国についてはこのまま登録となり、中国については、意匠の単一性の要求から、国内段階で


 国際意匠登録
第226,101

 60周年記念モデル
ヘッドホン

画像提供：株式会社オーディオテクニカ


 国際意匠登録
第226,160

 国際意匠登録
第213,163

部分意匠を分割出願しました。その結果、出願した全ての国・地域で両意匠が保護されています。

あまり知られていないのですが、当社は食品加工機器や産業用クリーニング機器も手がけており、国際意匠登録第226,160は、すしロボットの操作画面のGUI（グラフィカル・ユーザー・インターフェース）意匠です。ロボットがシャリ玉を作る際に、米の密度を選択するインターフェースのデザインを権利化しています。指定した欧州、英国、中国、韓国の全てで登録となり、コスト削減と手続きの軽減が図れました。

また、中国がハーグ制度に加盟したことでの、外国出願をまとめられるようになりました。

——最後に、今後の展望、ハーグ制度への期待、制度未利用者へのアドバイス等をお聞かせください。

オーディオテクニカ：近年当社が力を入れている製品に、スマートフォンアプリ「Connect」があります。これは、オーディオテクニカの対応製品の利便性を向上させるための専用アプリで、特に、Bluetooth製品の操作や設定をより簡単に行うことができます。この製品の開発と、ちょうど時期を同じくして、日本の意匠法改正があり、日本においてもGUI等の画

像意匠が意匠権としての保護対象となりました。そのため、アプリの操作画面のデザインを日本の意匠権により保護することができ、さらに、ハーグ制度を通じて欧州、英国でも権利化しました（国際意匠登録第213,163）。

当社は、アナログオーディオブランドとしての価値を高めるべく、設立60周年を迎えた年よりブランドメッセージとして「もっとアナログになっていく」を掲げています。その一環として昨年、空間に音の彩りをもたらすターンテーブル「Hotaru」を発表したところ、世界最大級のデザインコンペティション「A' DESIGN AWARD 2025」で最高峰の“プラチナ賞”を頂きました。本製品は、ターンテーブルが光るときの態様について、全体の外観、部分ともに国内で意匠出願しており、必要に応じて外国出願も視野に入っています。

製品とデザインは一体です。当社は、「音にこだわるすべての人へ」の理念の下、培ってきた技術とデザインがより心地良い音楽環境を提供し続けることを目指します。

ハーグ制度への期待としては、多数の国で迅速に意匠を権利化したい出願人のニーズに対応して、意匠の単一性等、各國の制度の違いがハーモナ化されると、より使いやすくなると思います。